

斜面工学研究小委員会環境生態系及び景観計画合同 WG
議事録(案)

日時：平成 15 年 11 月 28 日(金) 13:00～17:00

場所：東邦レオ株式会社東京支店 9 0 2 会議室

出席者：佐々木環境 WG 長、築瀬景観 WG 長、中野景観 WG 長代理、後藤委員長、稲垣副委員長、青木委員、岩佐委員、菊池委員、桜井委員、島村委員、外狩委員代理、大野幹事、(敬称略)

(オブザーバー(東邦レオ(株)社員))

西村、塚田、芹田、前田、中嶋、加藤、龍野(敬称略、順不同)

1. 斜面の計画・景観とは？

1 - 1 . 鉄道林について (島村委員)

1) 配布資料：以下の通り。

- ・ 島村誠、鈴木博人(1995)：鉄道林：成立経緯と施業の変遷、土木史研究、第 16 号

2) 話題提供内容

鉄道における森林のあり方についての歴史的な背景と現状について、配布資料を基に説明。鉄道は一度作ったらなかなか変更はできないので、メンテナンスが重要となる。

鉄道林は、明治の鉄道の建設において、地吹雪防止対策として始まった。鉄道林は、この他に雪崩防止林、防備林、水源涵養林などとして設けられている。こうした造林行為は、防災の側面のほかに、当初林業として黒字になるような経営方針で進められ、製造所などを建設するなどの林業経営でまかなわれていた。昭和 40 年ごろまではこの方法で成り立っていたが、近年の林業不振で林業経営が立ち行かなくなり、鉄道林を維持管理していくのが難しい状況にある。このことは防災上にも大きな問題となるが、経済的な処置をどう考えるかが問題となり、解決に至っていない。

3) 質疑応答・議論要旨

- ・ 鉄道林が鉄道に被害をもたらすことがあるが、これは元々防災上必要な場所であったためであり、逆に被害を小さく抑えられていると考えている。
- ・ 鉄道林は、宮内庁、防衛庁、大学などの森林と同様に、法的には「その他の林」に分類されている。
- ・ こうした鉄道林は、戦前に設置が終了しており、現在はその維持管理である。
- ・ 私鉄には鉄道林はないと思われる。
- ・ 現在、規模は小さいが維持管理の面として、住民との協働もある。
- ・ こうした鉄道林は、生態系にとってコリドーのようにつながっているから良いのであり、その維持が望まれる。

- ・ ドイツのアウトバーンは、道路とその周辺の割合が 1 : 1.2 程度であり、その維持管理は税金でまかなっている。

1 - 2 . 森林景観と調和させた構造物の景観デザイン(桜井委員)

1) 配布資料：以下の通り。

- ・ 櫻井正明：森林景観に挿入されたコンクリート構造物の景観デザイン
- ・ 堀繁、櫻井正明(2001)：土木構造物の景観設計 - 3 . 山地の景観、土と基礎、第 49 号、第 9 号
- ・ 櫻井正明(1998)：中部ヨーロッパに学ぶ景観整備、機械化林業、No.539
- ・ 櫻井正明(1999)：森林の環境 100 不思議 - 9 8 環境との調和を目指して、日本林業技術協会発行
- ・ 櫻井正明(1998)：土木構造物に著作権はあるのか？
- ・ あずさ沢治山のパンフレット

2) 話題提供内容

森林の中でのコンクリート構造物の景観。

遠景と近景に分けて物事を考える。

(遠景)日光の男体山での検討例

(近景)あずさ沢の例：基本コンセプト(6 つ)

スライドによる事例等の説明：紅葉谷の例、福山藩での例(江戸時代)、デレーケの指導による石積み、白水ダム(昭和の施設)など

治山のための施設の景観として、3つの問題点があり、これらを解決するような取り組みが必要である。

形は変えずに、表面処理のみで解決しようとしている。

コンクリートなのに自然物(石や木)への擬似を図ろうとしている。

防災上必要なコンクリート構造物を隠すような方向に偏っている。

これに加え、治山のひとつの大きな問題点として、「治山事業は自然を作り出しているのだから景観整備などやらなくて良い」というような風潮があることである。

景観に配慮するとき注意しなければならないのは、遠景において明度差と群化によって構造物が目立つという点である。

3) 質疑応答議論等

- ・ あずさ沢は、治山の施設であり、一般の立ち入りができない。平成 10 年に事業が終了し、現在ではコケなどが生えている。
- ・ 当初は内水に問題があるときに魚道が取り入れられていたが、現在は目的がはっきりしなくなってきた。

1 - 3.新しい観点からの斜面の計画、景観について(築瀬委員)

配布資料：なし

東名・名神高速道路：公団が線形からすべて執り行う。

新規5道等：建設省が決めて施工命令が公団に出る。

道路の景観を通して、今後の景観の捉え方・あり方についてのパワーポイントを用いた発表とそれに関する議論。この内容は全国大会のときの内容をバージョンアップしたものである。

2．今後のWGの進め方

このまましばらく環境・生態系WGと景観・計画WGの合同WGを開催していく。

次回のWGは以下のように執り行うことが決定された。

- ・ 開催日時：平成16年1月6日13時半より
- ・ 開催場所：土木学会会議室(東京都四ッ谷)
- ・ 話題提供：中野景観WG長代理、大野幹事

3．Q&Aの執筆について

今回は時間がなく議論することができなかった。次回に譲る。

4．その他

特になし